



**Sculpture to be Seen from Space,
Improvisation to be Heard from Space.**

宇宙から見える彫刻、宇宙から聞こえる即興演奏

Sculpture to be Seen from Space,

Improvisation to be Heard from Space.

宇宙から見える彫刻

宇宙から聞こえる即興演奏

実施日時 2017年8月初旬を予定

場所 モエレ沼公園 Moerenuma Park
〒007-0011 札幌市東区モエレ沼公園 1-1
<http://moerenumapark.jp>

主催 札幌国際芸術祭実行委員会
Sapporo International Art Festival Executive Committee

協力 多摩美術大学 Tama Art University

URL <http://space-moere.org/>

プロジェクト概要

「Sculpture to be Seen from Space, Improvisation to be Heard from Space. 宇宙から見える彫刻、宇宙から聞こえる即興演奏」では、ライブコーディング（プログラムコードを直接操作することで、即時に映像と音を生成すること）ができるモジュール（小型電子機器）を搭載した気球をモエレ沼公園から打ち上げ、地上からこのモジュールに即興的にコードを送ることによるサウンド・パフォーマンスを行う。このプロジェクトではこの行為を「テレコーディング」と命名し、サウンド以外にも映像やセンサー情報など、気球からのデータでモエレ沼公園を宇宙とつなぐ、世界にも類をみない芸術作品を創作する。モジュールには、地上を撮影するカメラも搭載されており、気球の高度や位置情報を計測しながら、モエレ沼公園を撮影し続けることができる。

さらにパフォーマンス後には、地上で回収したモジュールに記録されたテレメトリ情報（飛翔中の気球の状態や環境情報）を利用した、「彫刻としてのモエレ沼公園」と宇宙をつなぐ芸術作品を制作する。成層圏まで高度を上げながら小さくなっていくイサム・ノグチのランド・アート「モエレ沼公園」を、気球からの映像を通して遙か上空から眺め、宇宙から届く音楽に耳を澄ましながら、人間の営みを微視から巨視へと視点を変えつつ再考する。

本プロジェクトタイトルは、イサム・ノグチ作品“Sculpture to be Seen from Mars (火星から見るための彫刻)”(1947)から考案された。

お問い合わせ

札幌国際芸術祭事務局 〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

Phone: 011-211-2314 FAX:011-218-5154 Mail: info@siaf.jp

モエレ沼公園 〒007-0011 札幌市東区モエレ沼公園 1-1

Phone: 011-790-1231 FAX:011-792-2595 Mail: miyai.kazumi@sapporo-park.or.jp

学芸員 / SIAF 企画チーム 宮井 和美 Kazumi Miyai



×



Sculpture to be Seen from Space, Improvisation to be Heard from Space.

メンバー

ARTSAT

久保田 晃弘 Akihiro Kubota (プロジェクトリーダー)

堀口 淳史 Junshi Horiguchi

中澤 賢人 Nakazawa Kento

宇佐美 尚人 Usami Naoto

橋本 論 Satoshi Hashimoto

SIAF ラボ

小町谷 圭 Kei Komachiya (プロジェクトマネージャー)

船戸 大輔 Daisuke Funato

金井 謙一 Kenichi Kanai

石田 勝也 Katsuya Ishida

ARTSAT : 衛星芸術プロジェクト <http://artsat.jp/>

2010 年に開始された ARTSAT は、多摩美術大学と東京大学のコラボレーションを軸とした、オープンなプロジェクト。「衛星はメディアである」をモットーに、宇宙の文化芸術活用を推進する。今回の SIAF ラボとのプロジェクトは、リーダーの久保田晃弘の他、堀口淳史、中澤賢人、宇佐美尚人、橋本論らが参加する。2014 年 2 月に、世界初の芸術衛星「ARTSAT1:INVADER」の打ち上げに成功し、衛星の運用中に衛星からのデータを用いたメディアインスタレーション作品を、東京都現代美術館で展示した。続く同年 12 月には「はやぶさ 2」との相乗りで、地球の引力圏を脱出する芸術作品、深宇宙彫刻「ARTSAT2:DESPATCH」の投入に成功し、最遠で 470 万 km (月までの距離の約 12 倍) からの電波の受信に成功した。この作品は人工惑星として、ほぼ永遠に太陽を回る惑星軌道を周回し続ける。

「ARTSAT1:INVADER」で ARS ELECTRONICA2015 HYBRID ART 部門優秀賞をチーム受賞。「ARTSAT プロジェクト」の成果としてメディア芸術部門で、平成 27 年度(第 66 回)芸術選奨大臣賞を受賞(久保田晃弘)。

SIAF ラボ <http://siaf.jp/siaflab/>

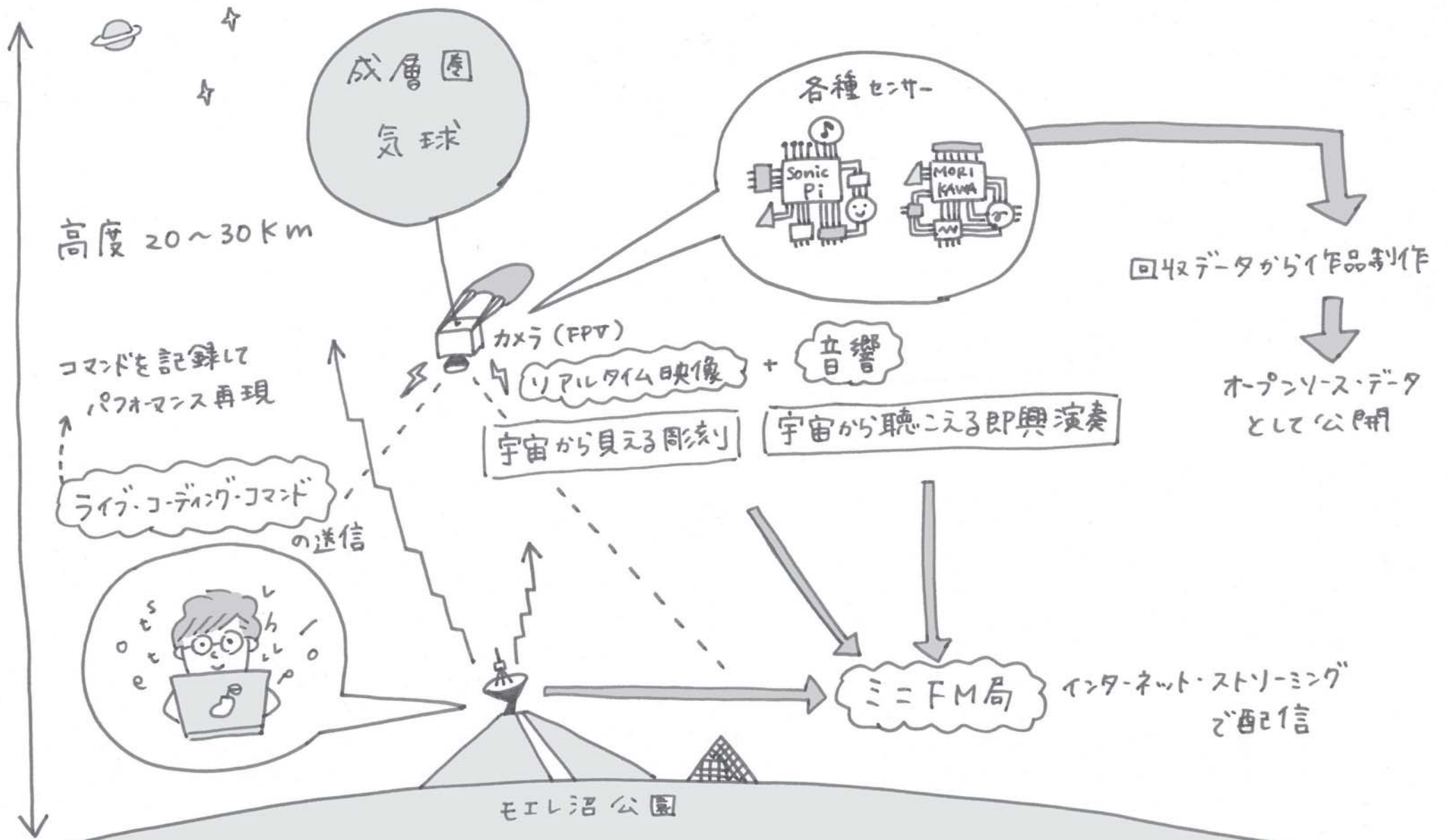
札幌市資料館に 2015 年に開設された「SIAF ラウンジ」と「SIAF プロジェクトルーム」の 2 つのスペースを活動拠点として、札幌らしい芸術祭を実現していくために活動、発信していくプロジェクトの総称。今回は電子工作やプログラミングなどの科学技術を使ったアート・プロジェクトやワークショップを担当する、小町谷圭、船戸大輔、金井謙一、石田勝也等が参加する。これまで開催したプロジェクトに「Bent Icicle Project - Tulala 2015 - ツララボ」や「オト・ナ・コード・モ」などがあり、この活動の中で開発した成果としてオープンソースのプログラミングソフトウェア Sonic Pi の拡張パック Haskap Jam Pack がある。



×



**Sculpture to be Seen from Space,
Improvisation to be Heard from Space.**



プロジェクトイメージ図

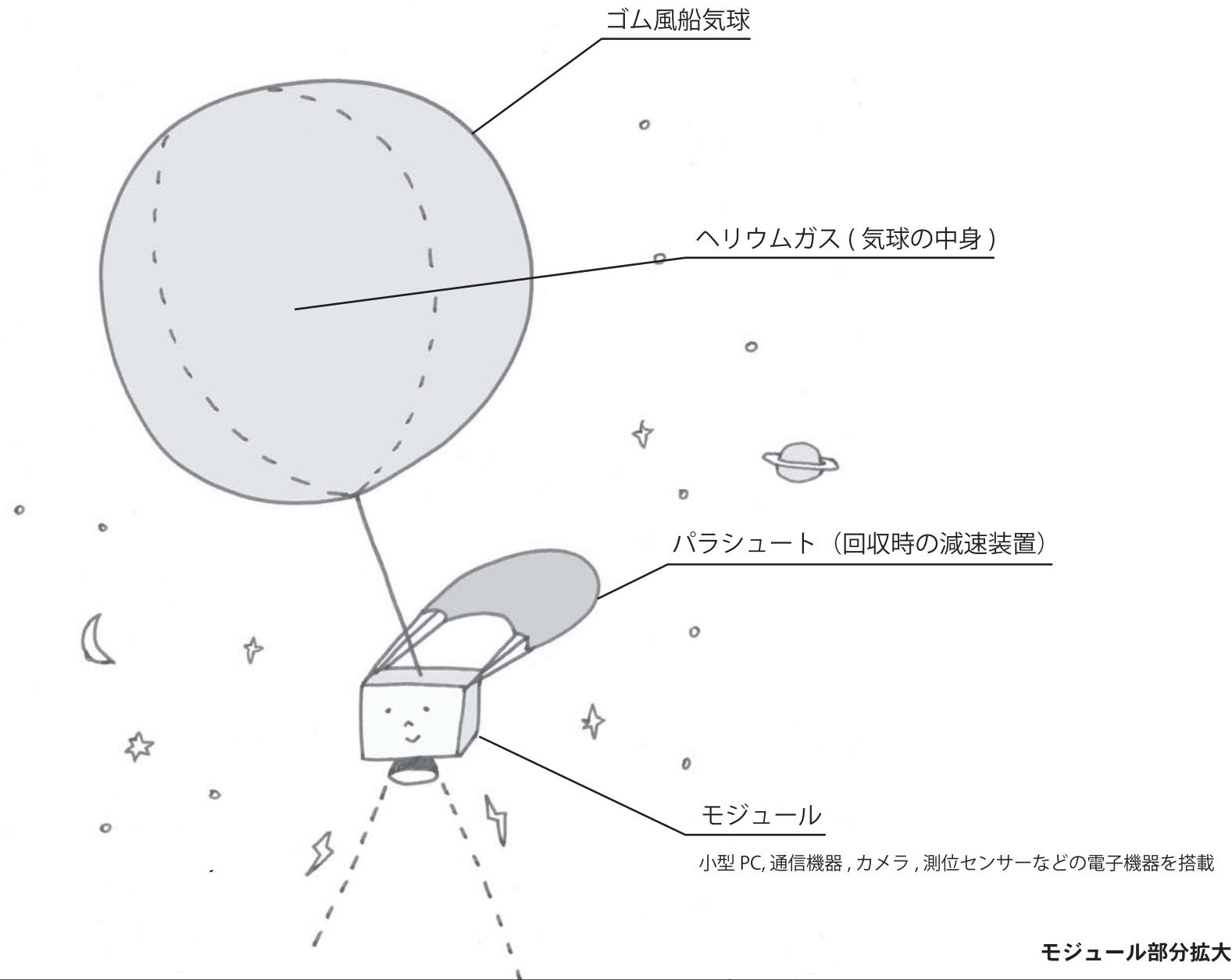


×



SIAF LAB.

**Sculpture to be Seen from Space,
Improvisation to be Heard from Space.**



×



**Sculpture to be Seen from Space,
Improvisation to be Heard from Space.**